

「〇」(わ) 2014年号
平成4年(1992年)11月創刊
平成26年(2014年)5月発刊
年1回発刊予定通刊第23号



編 者：武蔵大学剣友会
編 集：桑原 則行
藤本 健史
田中恵美子
発 行：武蔵大学剣友会

全国各地で実践中 ”生涯剣道“

卒業して三十年近く、あるいはそれ以上経った諸先輩に、地域貢献の剣道、会社生活の中で再開した剣道、退職を機に始めた剣道等、生活の一部に取り入れられている剣道について寄稿頂きました。

少年剣道に関わって



定年近くなっ
て、もう一度剣道
を遣ってみようと思
いました。長く
遣っていないの

で、体力もなく、取りあえず少しづつ始めようと思いい、小学校の体育館で剣道を遣っているのを思い出し、近くの小学校を幾つか回ってみました。その中で土日と練習している今の剣友会に入りました。会員は指導者数名と小学生が殆どです。
入ってみると、子供相手とは言え結構きついなと感じました。ランニングから始まり、体育館一杯使って前後左右の摺り足や打ち込み足の練習、竹刀を持っての前後面・左右面の素振りや跳躍面等早くも足が張ってきます。面を着けて技の練習・掛り稽古は受けるだけとは言え、

子供に合わせて動きますので結構息が切れました。稽古が終了する頃は、アキレス腱の辺りが痛くなりかなり疲れしました。

技の練習で驚いたのは、一足一刀の間合いから継ぎ足をしないうで面を打つ練習です。私自身意識した覚えはなく、寧ろ無意識に継ぎ足をしていたと思います。自身遣ってみて中々タイミング等覚えられませんでした。

少年剣道は思っていた以上に高度で、ほぼ大人と同じことをしています。従って教える時も、子供だから無理だと思わず、難しいと思っても言うようにしています。私も再開してみると、全く体のバランスが悪く、足と手が一致しなかったり、体が開いて打ったり、面が斜めに滑ったりと散々です。自身直さなくてはいけない所が沢山あるなと思いました。先生の教えや指摘を子供らと一緒に基礎から始めました。でも直ぐ良くなりません。自分自身が良くなりませんが、今も苦労しています。自分が良くなりませんが、今も苦労しています。

く教えられないとも思っています。

とは言え、まだ小学生ですので直ぐ出来る訳はなく、其々色々な癖があります。その時は直つても、次は元に戻っています。特に試合は勝ちたい一心で、手打ちになったり、打たれまいと避けてばかりいたり、基本で習った様には中々出来ません。お母さんも勝つて欲しいと願ひ、私も勝たせたいと思ひますが難しいものです。でも勝つた子は自信になり其の後もやる気を持って稽古します。

子供も5、6年生になると体格もしっかりし、剣道らしく上手くなったなと思うときがあります。ただ今の子は全体に声小さく、中々大きい声が出ないのが気になります。私も声が出ず意識して出していますが、声が出ないと体の中からの力が出ず、しっかりした打ちが出来ない様です。

今私は体力や時間から地元を優先にしていて、武蔵に中々行きません。でも、今教えている子供達の中・高校と続け、将来武蔵大に入り、剣道を続けて呉れる

と良いなと思っています。OBの方も今は出来なくても、将来地元で少年相手に剣道を再開することを願っています。

(昭42年卒 緑川 毅重)

「卒業してから46年、70歳になりました」



昭和42年・埼玉
県桶川市の会社に
就職、会社に剣道
7段で警察の嘱託
教師をされてお

り、自費で子供たちに剣道を教えていた先生がおられました。先生が体調をくずされ、剣道指導の手伝いをするようになったのが、桶川剣友会との出会いでした。

桶川市の川田谷地区では、昭和47年3月に父母の会が、翌年3月に桶川剣友会が結成されました。昭和50年1月に桶川市柔剣道場が出来るまで、稽古場所が決まらずに、校庭・体育館を借りてのジブシー暮らしでした。当時は、稽古日は月・水・金、稽古開始時間は午後5時半、指導出来る先生は、桶川勤務の2〜3名で、剣友会員が多く、幾班に分けて指導した記憶があります。

平成3年4月、加納道場発足。その当時の剣友会員、おおよそ桶川100名、川田谷50名、加納50名と記憶しています。

7月桶川サンアリーナ落成記念祝賀剣道大会。9年4月川田谷道場・加納道場閉鎖。平成14年11月創立30周年記念大会、私が桶川剣道連盟会長の時でした、関係

各位のご尽力で、盛大に挙行することが出来ました。そして、大震災、桶川市柔剣道場も、今年、解体され更地になってしまいました。桶川の剣道の一ページが消えるようで、寂しくなる思いです。でも、平成23年は長年の念願だった全日本少年剣道練成大会での小学団体優秀賞（ブロック優勝）の獲得。関係各位のご努力による、新入会員の増加は、目を見張るものがあります。平成24年11月、創立四十周年になりました。桶川剣道連盟・剣友会の入会者は、昭和47年から平成24年までの合計は1,658名となっています。平成25年7月の全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会は埼玉県が優勝しました。先鋒・次鋒は桶川剣友会の出身でした。「量より質」の新しいページを開いていって頂きたいと思っています。

平成21年4月から桶川中学校の外部指導員を委嘱されています。当初、団体戦は男女とも県大会に出場出来ませんでした。平成21年4月からは男女とも出来る様になりました。県大会で良い成績をあげ、関東・全国大会を目指して、指導して行きたいと思っています。

(昭42年卒 手塚 哲男)

「攻めて！溜めて！ポン！」



館山の武蔵OB
合宿を契機として
剣道を再開して10
年たった、

「二に研究、二に

努力、三四がなくて、五が根性」が剣道上達の秘訣といわれている、その研究・努力の実践として

「攻めて！溜めて！ポン！」と吉澤八段から指導を受け、2年経過した。

はじめて指導を受けた場所は手塚先輩の母校・氏家中学校の武道館、これ武蔵の縁。

「一足一刀の間合いから、一で更に間合いを打間まで攻め、二・三で溜め、四でポンと打つ」

体を上下させずスーと打間に入り、三秒待ち、相手が打ってこなければ面！打ってきたら、出小手・応じ胴・すりあげ面。

「攻め」は自分の右足を相手の右足に向かって中心を取りながら、体や首を上下させず気付かれないように打間に入る。

学生時代、掛稽古が多かったためか、遠間から打つことが今でも多い。

この指導を受けてから打間で打つ事に

より、今まで全く打てなかった先生方に少しは打てるようになってきた。

「溜め」とは「打つタイミングを見つける、一撃で倒すまで待つ。隙をみつけたらすぐ打てる体勢を作っておく」とある。

この「溜め」の段階で三秒待つ！その間、隙を見つけ、捨て身の一本打ちをする。

かつて関根先生から「先の先・先先の先・後の先だ！わかるか？」と指導を受けていたが、理解不足から先に打つことが「先」と打ち急ぎが身についている。

「ポン！」とスナップで打つ。手の内とか右手の力を抜くとか、頭では解っているが体がそのように動かない。

自分の打突音が「バシッやパン」の音でなく「軽いポン」という「いい音」が出るような打ち方、「音」にこだわる事にした。その音が出ればよしと決め付けた。

あいからわずバシッの音の連続である。右手に力が入り斜め打ちの曲がった「面」が続いている。

溜めて「応じ胴」

吉澤八段は七段昇段後、警視庁の先生に何故胴を打たない？

「胴を打て！」と指導受け、マスターするのに何年か掛かったと…。

教えは相手の鰐元まで剣先がつくまで近ずき、溜めて正眼に構えて、一歩前進し、相手が耐え切れず、相手の手元が上

がったら受けて胴を打つ、その時自分の体幹は動かさず、相手が打ち抜けると同時に左右の足を右に開く。

この技ができれば相手は容易く面を打てなく、攻めが生きると…。

「攻め・溜め」技は熟年者との稽古で実践、「ポン！」技は子供達との稽古で実践、「応じ胴」は若者との稽古で実践しているが有効打突には程遠い今日このごろです。

(昭43年卒 天沼 茂太)

台湾親善稽古会の旅

(平成25年3月8日～20日)



東日本大震災の復興祈念と銘打った剣道大会が台湾高雄で開催されています。

私たちも被災者なので、剣友5人で参加しようという話はずぐにまとまり、東京野間道場の剣友達も誘い合って、総勢12名で高雄へ出かけることになりました。

3月8日お昼、成田に集合しチャイナ・エアヘスーツケース、剣道具・竹刀等を預けチェックイン完了、誰かが、「保険も入っていたほうが良いよねえ」、「でも3泊4日の台湾に旅行保険なんていらねえよ〜」……ごねる私、それでも仲間を勧められて渋々加入。

その保険が後でどれだけ役に立ったとか、そのときはまだ損した気分でした。

昼食は機内でも出るので、軽くそばでもと皆でざるそばを食べ、2時50分離陸、一路台北は桃園空港へ、この日は夜「台北剣道館」で稽古の予定でした。

30分も経ったでしょう、機内食を配り始めた頃、急にお腹が痛くなってきました。それもだんだん強くなるのです。脂汗が出て拭いても拭いても、握ったハンカチがグシヨグシヨになる程でした。隣では仲間がおいしそうに食事をパクパクと……

「お腹痛いので胃薬ありますか？」

「薬は積んでありますが、お医者様の処方がないとお出しできません」

「ではその医者とは？」

「機内にいるか？アナウンスしてみます」

「何かドラマみたいだなあ」と思いつつ、でも医者は名乗り出ず、やむなく台北まで我慢せよと、ビジネスクラスで横になり、スチュワーデスが付きっきりで親指の付け根をマッサージュしてくれ、気分的に痛みが和らいだような気がしました。

約3時間後待ちに待った桃園空港着、飛行機のハッチが開くと、医者と車椅子が待機しており、簡単な触診後（言葉がわからないので）車椅子はスピードを上げ、入国審査をすり抜け（まるでVIP

のよう）、空港出口には救急車待機、そのまま台北郊外の病院へ直行。

その救急車には応急処置の機材やら、救急救命士等はおらず、ただ長椅子があるだけなのです。この国の救急車、この国の病院、言葉もわからず、「俺、この先どうなるんだろう、大丈夫なのかなあ」

「ピーポ、ピーポ、サイレンを聞きながら不安と痛みは増すばかりでした。30～40分して着いた病院は日本の大学病院のようで、夜間の救急の患者でごつた返してありますが、付き添いの航空会社の通訳さんの計らいで、最優先で診ていただきCT検査後、医師より「腸捻転の可能性があります。緊急に手術をしなければ、捻転した腸が壊死してしまいます。」

「ええっ、手術、そんな！」（焦りました）この時点でも、明日の高雄の剣道大会に出場する気でいましたから。付き添いの通訳さんや仲間の勧めもあり、やむなく「お願いします。何とか早くこの痛みを取って下さい」、先生の言うことを聞いて手術を受けることになりました。痛みをこらえベッドに横たわったまま数々の同意書にサインの後、手術台へ、本人確認後、全身麻酔、これで目が覚めなかつたら……、死はこんなかたちでやってくるものなのか……と思いつつ意識は無くなる。

その間、仲間が私の家内に連絡、取るものもとあえず翌日、息子と共に病院まで駆けつけてくれたのは、心細い思い

でいたところ救われた思いでした。

翌日、傷口が痛む中、先生が回診の折、どす黒くサラミのようになった腸の写真を見せながら、「明日もう一度手術をする」というのです。

「捻じれた腸を引っ張って整形し、お腹へ戻したので正常に動いているか確認します」、「えっ！勘弁してよ。ほかに方法は無いの？」

一度切って縫い合わせたところをまた開け、腸を取り出して再確認するという「百聞は一見に如かず」、こんな手術日本でもやるかなあ？

ここは台湾です。腹を決めて再度手術台へ。結果は、手術のタイミングが早かったので、腸は壊死しておらず切ったのは表の皮（へその真ん中縦一文字に14～5cm）だけでした。

「いつ頃帰れるだろう？」カレンダーを眺めながら、気になるのは入院期間でした。

先生に聞いてみると、即座に「2週間～1ヶ月ですね」。家内とも絶句!!

「回復を早めるためにも、できるだけ歩きなさい」先生の勧めで病院の中を点滴を引きずって、行ったり来たり（早く帰りたい一心でした）

病状が落ち着いてくると、次なる心配は入院の費用のことです。保険会社に連絡すると、迅速な対応で、「病院との間ですべて支払い対応しますのでご安心く

ださい、治療に専念して下さい。」とのこと。安心しました。

私は退院時にサインするだけで良いのです。また、「呼び寄せた家族のチケット代も出ますよ。海外で使用した電話料金、ホテル代、タクシードも出ます。」これほど保険のありがたみを感じたことはありませんでした。

日本の病院との違い その①

この病院では特別な患者を除いて病院食はないのです。その代わり病院の地下にはデパートの飲食街のように、飲食店が並び、コンビニ、喫茶店、果物屋、床屋、美容室まであり、日に三度、調達に行くのです。台湾の朝食はおかゆが主流なので、病人にとっては好都合でした。

日本の病院との違い その②

この病院では、携帯電話の使用はOK

私の病室は2人部屋で隣の患者は、仕事の打ち合わせなのか、朝から晩まで携帯をワイワイ・ガヤガヤと大声でやってました。

看護師は処置の折、翻訳機能を使ってスマホの画面を見せ、意思の疎通をはかってました。

また、回診の先生も首に携帯をぶら下げて、帰りのチケットの手配に自ら、旅行社に電話してくれたのです。ありがたいことです。

でも、病院内で自由に携帯が使えるなんて、日本では考えられないですね。

私のような日本人に対し、先生、看護師、病院スタッフの皆さんが大変良くして頂き、有り難く感謝の気持ちでいっぱいです。

おかげさまで、2週間で退院でき、帰国できたのでした。

その後は体調も順調に回復し、体力も徐々に戻りつつあり週に2〜3度の稽古ができる様になりました。秋の審査会にも挑戦しようと思っております。

そして、これからも高雄の大会には参加して、剣道の指導を通じて微力ながら少しでも恩返しができるばと考えております。

(昭和46年卒 眞谷 繁美)

関根先生の教え



先生は、両切りのピースを、爪が潰れた親指と、先が曲がってしまつた人差し指でつまみ、紫煙が目に入ったのか煙そうな目で私を見ながら「青大将って、どんな大将か知ってるか?」「笹岡大将は、青大将だ!ハハハ!」と言って笑って居られた。

先生は、我々学生を奮起させんがため、

自らを悪役にし、憎まれ口を言い、何とかして我々の心の奥にある「覇気」を呼び起こさんとされておられた。

先生が、武蔵大学剣道部の師範に就任された当初の頃は、先生は、学生を「人間」扱いしなかったと聞く。まさに鬼の様な師範であったと伝え聞いていた。我々の知る師範は、それでも学生を人間扱いしてくれていたのである。

先生は、警視庁剣道指導室で稽古を重ね、生死を賭ける程の境地を経て来られていた。その苦行を経ているからこそ、剣道を通じて我々学生個々の特性を見抜き、剣道に対して何が欠けているのかも見抜き、個々に適切な指導を為されたのだと思う。

郡山合宿の時、地元剣連の先生方が多数稽古に来られ、我々学生はコテンパンに打ち据えられたことがあった。合宿中に来られた先生に「地元の先生方に、迎え突きや足払いで痛めつけられました。」

と報告したところ、翌日の稽古で、今度は先生が地元の先生方をそれこそ「コテンパン」にしていたのである。先生は、口では何も言わなかったが、「和」を重んじつつ、それを体現されていたように思えるのである。

関根師範の教えの中から掴んだものは「人は、気力さえ有れば、如何様にもなる。」ということである。

これを読まれたOB、OGの方々、

どうか現役学生と交剣して頂きたい。OB、OGの竹刀を握る姿を学生に見せて頂くだけで、学生は、どれ程力強く思うことか、ご自分が現役の頃を思い返してみても下さい、当時のOB、OGは皆輝いていたではないですか。

これからも、関根先生に教えて頂いた「剣道の楽しさ」と「和」の力強さを感じて後輩達に伝えていきたいと思っております。次第であります。

(昭和51年卒 師範 笹岡 秀次)

剣縁を繋ぐ



私が剣道をはじめたのは中学に入学してすぐの12歳の時でした。

は、現在私が所属する東京大井剣友会の前身で当時奈良道場と呼ばれていました。

品川区剣道連盟は昭和28年に創立されてきました。奈良道場はその品川区剣道連盟4支部のひとつである大井支部の中心の道場でした。師範は今村実先生でした。

私が武蔵大学に入学し剣道部に入学した事を報告に伺いますと、今村先生は一番に師範は誰だと聞かれましたので、「関

根日吉先生です。」と言いますとすぐ「なんだ日吉か」と言われたので大変びっくり致しました。

よくお聞きすると、若い頃今村先生は私の住む立会川の交番に勤務し、関根先生は2つ隣の駅、青物横丁の交番に勤務し、「日吉」、「実」と呼び合う仲であると話していらっしゃいました。

関根先生にもお話を聞きすると、京都大会にもよく一緒に行かれるとの事でした。

そして両先生とも「お前はいい先生に習ってるなあ。」と口をそろえるようにおっしゃりました。

当時、この両先生のお言葉がとても嬉しく思い、恥じないように稽古にのぞんでいました。

現在私は、今村先生が造られた東京大井剣友会の代表を務めさせてもらっています。

剣道はさほど上手ではありませんが、会員の方や子供達が楽しく正しい剣道を続けられる環境を作り、守って行く事が私の責任だと思って活動しております。

これも、両先生に師事出来たおかげだと感謝しております。教えていただいた事を無駄にせぬよう努力してまいりたいと思っております。

(昭和52年卒 旭 茂)

「スポーツを通して」



今年四月(二〇一三年)私は女子卓球部顧問を拝命しました。三年生二二名を含む総勢

三五年でのスタートです。三年生が入学した年の三月に東日本大震災が発生し、屋外での活動が制限されたことも、多くの生徒が入部した要因です。当時から最後の中体連大会に全員が出場できない可能性があることは伝えてありましたが、いざ最後の大会が近づくと、顧問としての大きな悩みでした。「三年生全員を試合に出場させたい。」と話したその日から、女子部長の心労は計り知れないものだったはず。生徒たちは何日も何日も話し合いを重ね、最終的に三年生の全員出場をやつてのけた部員達はすばらしいの一語です。そこには部活動本来の姿があり、とてもすがすがしい気分を味わうことができました。(陰で我慢し、泣いた生徒たちにありがとう。)

剣道部顧問を離れ、野球や卓球を通してスポーツのすばらしさを実感した今、再度剣道を通して生徒と地域に貢献していきたい気持ちが高まっています。そんな中、私が所属している剣友会で一途に練習に励む中学生が、(原発事故の關係

で避難している)今年「全中」に出場したことにも大きな刺激を受けました。現在二人の息子が週三回剣道のスポーツ少年団に通っている関係で、小学生と稽古をする機会が増えました。一途に稽古に打ち込む小学生の姿に、改めて剣道(スポーツ)の持つ力を感じます。

切な心の成長につながることは誰しもが認めるところです。剣道を通して今の私があるように、これからを担う若い世代にスポーツを通して(もう一度剣道で)、何かを伝えていきたいと、今強く思っています。(来年度は剣道部顧問として。)

(昭和60年卒 菅野 昭浩)

第1回 武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会 開催

部員獲得の一助へ、大きな第一歩踏み出す！

平成25年12月15日(日)、本大学体育館にて、剣道部主催による「武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会」が盛大に開催されました。

東京近郊の高校剣道部に、武蔵大学剣道部を知ってもらい、将来に向けた部員獲得の一助にするのが狙いです。

当日は、男子123名、女子79名の各トーナメント方式で、審判長には西川清紀先生をお迎えして白熱した好試合が繰り広げられました。

参加選手はじめ、各高校の関係者には武蔵大学のそして剣道部の良い雰囲気を感じていただいたものと期待するところです。

今後、恒常的な大会とすべく、OB・剣友会各位のさらなるご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



剣友会総会にて審議、承認

平成24年度会計報告、平成25年度予算(案)

松森基金 平成24年度会計報告

自平成24年7月1日～至平成25年6月30日

平成25年6月30日
松森基金
理事長高田 寿

項目		H24実績額
前年度繰越額		992,497
収入の部		
預金利息	24.08.20	80
振込寄付金	24.11.22	5,990
預金利息	25.02.18	80
振込寄付金	25.06.27	10,000
小計		16,150
収入の部合計		1,008,647
支出の部		0
支出の部合計		0
次年度繰越額		1,008,647
平成25年6月30日現在預金、現金内訳		
東京東信用金庫 四谷支店		1,008,647
合計		1,008,647

監査報告書
平成24年7月1日～平成25年6月30日の会計年度における当会の収入、支出に
関し調査した結果、正確であることを認めます。

大竹茂雄



武蔵大学剣友会 平成24年度 会計報告及び平成25年度予算(案)

平成25年7月20日
武蔵大学剣友会
会計 大竹茂雄

項目	H24実績額	H25予算案
収入の部		
口座振替年会費	887,000	922,000
振込他年会費	373,000	140,000
預金利息	285	200
その他	17,470	0
収入の部合計	1,277,755	1,062,200
支出の部		
現役へ支払い 新人勧誘費援助金	45,000	45,000
現役へ支払い OB連絡費他 負担金	50,000	50,000
現役へ支払い 先生方 中元、歳暮他	25,000	25,000
現役へ支払い 剣道セミナー参加費	30,000	30,000
現役へ支払い 関東学連 練成会参加費	10,000	10,000
監督年間交通費	50,000	50,000
OB会扱いOB連絡費他	99,945	130,000
関東学連 年会費	20,000	20,000
関東学連 全国大会参加費用	39,000	39,000
東京学連登録料及び大会参加費他	139,200	140,000
東京学連他剣道大会地方参加者交通費支援	75,000	100,000
剣友会ホームページ作成費用	50,000	0
剣友会ホームページ年間維持費	60,000	60,000
新生ビジネス取扱手数料	23,940	25,000
新聞発行費用	56,858	60,000
鹿島神宮、香取神社お祓料及び経費	40,790	40,000
卒業生寄贈及びOB剣友会加入 名札代他	23,400	25,000
昇段 記念品	40,000	40,000
慶弔見舞	40,000	40,000
その他	88,796	80,000
支出の部合計	1,006,929	1,009,000
前年度繰越額	1,355,522	1,626,348
次年度繰越額	1,626,348	1,679,548
平成25年6月30日現在預金内訳		
みずほ銀行 渋谷中央支店	1,188,725	
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店	271,798	
渋谷郵便局	165,825	
合計	1,626,348	

監査報告書
平成24年7月1日～平成25年6月30日の会計年度における当会の収入、支出に
関し調査した結果、正確であることを認めます。

監査 緑川 毅重



「剣友会々費振込先のご案内」

みずほ銀行渋谷中央支店 (普) 1525324 武蔵大学剣友会
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 (普) 6832924 武蔵大学剣友会
ゆうちょ銀行 ○一九支店 (当座) 192263 武蔵大学剣友会

OB・OG各位のご支援、宜しくお願いいたします。